

BankARTスクールは、横浜・馬車道に残る歴史的建造物を芸術文化の場に再活用したBankART1929のプログラムのひとつとして、2004年4月に開校しました。

BankARTスクールの守備範囲は美術・演劇・写真・建築・音楽・ダンスなどアート全般におよび、講師は各ジャンルの第一線で活躍する人たちばかり。子供向けのワークショップから専門性の高い大学院レベルの講座までさまざまですが、いずれも少人数制で、講師と受講者、あるいは受講者同士の親密な交流を重視する現代の寺子屋をめざしています。

BankARTスクールは日曜を除くほぼ毎日、休みなく開講しています。この2年間で60講座、計190人の講師の方々をお招きしました。受講生は4歳のおじょうちゃんから84歳のおじいちゃんまで、述べ802人におよびます。

ぶっちゃけ話、これらの講座を受けたところで即戦力にはならないし、なにか資格が得られるわけでもありません。受けるだけではなんの役にも立たないのです。むしろここから自分たちでなにを立ち上げていくのか、それが問われているのです。

BankARTスクール校長 村田 真

■BankARTスクールの概要

基本的に週1回、2ヶ月間で全6回。定員は基本的に20名。時間は19時30分から21時30分(土曜日は15時から17時)です。場所は基本的にBankART Studio NYKになります。

■スクール受講生の特典

受講生には、学生証を発行します。また、BankARTショップでの買い物に5%割引、BankART/バジおよびカフェ1,000円チケットが10%割引となります。

■アシスタントの募集

BankARTスクールでは、講座の記録やサポートをお願いするアシスタントを募集します。アシスタントは記録担当の講座を無料、その他の講座を半額で受講できます。意欲のある方にお知らせしております。

■申し込み方法

受講したい講座名、お名前、お住所、電話番号、メールアドレスをメール・FAX・電話のいずれかにてお知らせください。その際に受講料の送込先もお知らせください。入金が確認できた時点で手続き完了となります。一講座15,000円(税込み)、はじめての方は入学金3,000円(税込み)し一層にお支払いいただきます。また、講座によっては別途材料費や資料代がかかる場合があります。なお定員になり次第、申し込み受付を終了させていただきます。

申し込み・お問い合わせ：BankARTスクール事務局
school@bankart1929.com
TEL 045-663-4677 FAX 045-663-4745

BankART 1929

BankART Studio NYK
〒231-0002 横浜市中区南浜3-9
TEL 045-663-4677
FAX 045-663-4745
BankART 1929 Yokohama
〒231-8315 横浜市中区本町6-50-1
info@bankart1929.com
http://www.bankart1929.com



BankART Studio NYKまで
横浜みなとみらい線「馬車道駅」下車徒歩4分

BankART school 2006 前期
美術・演劇・映画・写真・建築・音楽・ダンス
Art/Play/Movie/Photograph/Architecture/Music/Dance

村田 真

美術のための全8教科
6月5日・12日・19日・26日 / 7月3日・10日・17日・24日



中学時代、5段階評価で唯一3年間オール5だった科目が「美術」。だけと自慢/自耀する村田校長が、美術をネタに「いまさら聞けない」中学生レベルの知識を密かに復習する一いりやだ。国語や歴史や科学や経済といった苦手な教科科目をとおして美術をわかりやすく語る入門講座。「美術」の語源は? 「近代」とはいつのことか? なぜレオナルドは人体解剖したのか?

むらたまこと: 美術ジャーナリスト。東京生まれ。びあ編集室を創設、朝日新聞「地域創造」、インターネットマガジン「artscape」などに執筆。著書に「美術家になるには」、訳書に「絵との対話」、共著に「ちょっと知りたい美術の常識」「橋を歩いていく」など。慶應義塾大学非常勤講師、BankARTスクール校長も務める。

地震と豪雷を乗り越え飛翔く 越後妻有「大地の芸術祭」

6月5日・13日・20日・27日 / 7月4日・11日・18日+特別講義

700kmの里山で展開される地域との協働による350の作品。都市の美術だけだった20世紀の美術に変わり21世紀型美術は過渡期に見捨てられた地域で意味を持ち始めるかもしれない。その先導となった越後妻有アートトリエンナーレ「大地の芸術祭」は地震と豪雷を乗り越え今年3回目を迎える。この芸術祭を担っている総合ディレクター、地域の人々、サポーターこへび隊、来日アーティストによる連続講義。

講師予定:

北川フラム(越後妻有アートトリエンナーレ総合ディレクター)
地域住民
こへび隊
エルネスト・ネト
ほか



福住 康

アートの麗り方
6月7日・14日・21日・28日 / 7月5日・12日・19日・26日



昨年成土屋誠一、奥村雄樹とともに開講した「アートを書く/書かれたアートを読む」の連続講座。狭い意味での「美術批評」ではなく、エッセイやレビュー、ポルターージュなど、広く「アート」にかかわる文章を書きたい人におすすぬ。実際に文章を書く訓練を繰り返して、書く喜び(と若干の苦しみ)を味わいながら、アマチュアのライターを目指す。何らかの形で成果を発表することを予定。

よくぞみれん: ライター。1975年東京生まれ。九州大学大学院比較社会文化学府博士課程単位取得退学。美術出版社編集第12回芸術評論で佳作受賞。「BT/美術手帳」/「artscape」などに寄稿する一方、北九州のオルタナティブスペース「level」の運営に関わり、東京の「ギャラリーマキ」で連続企画展のキュレーションも手掛ける。

大野慶人

ワークショップ「からだと思おう」
6月8日・15日・22日・29日 / 7月6日・13日・20日・27日



「からだ(身体)」は創造して存在し且つ双方向的である。からだを創造する。立つ、歩く、走る、振る等を通して舞踏やダンスや演劇にとって必要な「技術」とは何かを考えよう。大野一雄は「身の内側に居る」。土方寅は「技術は舞踏家の必然である。技術は精神と魂を含有する」と言っていました。とても大切な教えであると思います。私自身を全身全霊でお伝えしたいと思います。

おのおよしと: 舞踏家。1938年東京生まれ。59年土方寅の「景色」で少年役を演ずる。以後、アルト一雄、船山汎郎公演に参加。85年「死海」で大野一雄と共演。大野一雄との共演を続けながら、2003年より海外での単独の活動も再開。横浜/保土ヶ谷で大野一雄舞踏研究所を主宰。演出に「舞心」/大野一雄フェスティバル(2005、04年度BankARTスクールで講師を務めた。

Off Nibroll

映像のなかにおける身体イメージ
6月2日・9日・16日・23日・30日 / 7月7日・14日・21日・28日



映像イメージのなかにおける身体イメージをどのように捉えるか? 身体といっても全体ではなく、例えば手だけだったり、目だけだったりする。最終的に短いビデオ作品を作る。でも、想像力がなくても大丈夫です。今は簡単に映像作品が撮れますから、ひとつの方向だけにかたよらざるにチャレンジしてみたいですね!

おふにぶろーる: 1997年設立のパフォーマンスカンパニー「ニブロール」の全作品の製作を手がける矢内原美那と映像ディレクターの高橋香穂によるユニット。第一弾プロジェクト「public-un-public」をBankART1929にて上演。オーストラリアや上海などでの海外公演も行う。また、横浜市と台北市との文化交流事業により、台北市での滞在制作も行う。今年度はBankART 2006企画委員も務める。

石黒敦彦

「かたち」の宇宙学校—芸術と科学のインターフェイス
6月10日・17日・24日 / 7月1日・8日・15日・22日・29日



メディア・アート、インスタレーション、体験型アート、後学アートの基本にある「かたち」についての新しい認識・感覚」をかたんとつワークショップで実際に体験しながら、考えていきます。ワークショップの体験をみんなで「共有」した上で、レクチャーで「芸術と科学の新しい関係」を学び、そこから生まれてくる新しいミュージアム、アーティストの未来像を検討します。

いしぐろあつひこ: 「考えるべき芸術」のためのワークショップ代表。1952年東京生まれ。科学/芸術系の編集者を経て現職。「メビウスの部屋」(01年〜)など、毎年全国各地で科学とアートの展覧会、ミュージアムの育成・影響にあたっている。多摩美術大学情報デザイン学科、武蔵野美術大学芸術文化学科非常勤講師。著書に「体験型おもしろミュージアム/ジオメトリック・アート」など。

多木浩二

「建築 2」—人文学者の目から見た現代建築
7月31日 / 8月7日・21日・28日 / 9月4日・11日・18日・25日



2004年建築講義の続編。ある時代の建築とは、歴史のさまざまな流動的な力の配達のまっただなかに生じてくる。建築はそのような意味で哲学者、社会学者、歴史家らにとってはかろうしれない思想的なヒントに満ちている。ここではそのような観点から、とくに現在最先端で活躍する建築家たち(レム・コールハース、伊東豊雄、山本理顕ら)の作品を多く選出。それらが歴史を生きるわけの議論、無意識とどのように関わっているかを問題にしてみよう。

たきこうじ: 評論家、神戸市出身。東京大学文学部卒。元千葉大学教授。芸術にたいする感受性と哲学的思考を結びつけ、芸術や文化を論じつつ、歴史哲学的認識や存在にいたる道を探究する。著書多数。「眼の距離」/「生きた家—経験と象徴」/「天皇の肖像」/「シジフォスの笑い」/「もの」の詩学」/「足歩とカダストロフィー」など。

岡田利規

「フツー」を重視する
8月1日・8日・22日・29日 / 9月5日・12日・19日・26日



フツー、つまりいつもの日常のときの自分たちの状態。話し方や動き方、について少しでも目を凝らして突き詰めてみると、「フツー」って、「なんでもないこと」では全くない、ということが分かります。フツーって、めちゃめちゃ過剰です。時間の許す限りフツーをいじくりまわして、僕たち自身の身体が持つ興味深さと戯れてみたいと思います。

おかだとしき: 劇作家・演出家。横浜を拠点に活動する演劇ユニット「チェルフィッチュ」主宰。超リアルな日本画によるテキストと、日常的なならしない身体性を駆使した手法で注目される。2005年2月「三月5日」で第49回伊田誠曲賞受賞。BankART CafeLiveシリーズで「目的地」ワークショップを企画。昨年度BankARTスクールで講師を務めた。

アーティスト・イン・レジデンス—理想の制作環境をめぐる

8月2日・9日・23日・30日 / 9月13日・20日・27日 / 10月4日

アーティスト・イン・レジデンス(AIR)が日本に普及して約10年。今年は東京都でも大規模なAIRが計画されています。これを機に、日本の代表的なAIRのディレクターおよび体験アーティストを招いて現状と問題点を語り合いたい。AIRはいかにあるべきかを考えます。

- 8月2日 原田真千子(秋吉台国際芸術村)
- 8月9日 浜田剛爾(国際芸術センター青森)
- 8月23日 今村有策(トーキョーワンダーサイト)
- 8月30日 もとみやかをる(AIR/アーティスト)
- 9月13日 若井成昭(アーティスト)
- 9月20日 高橋笑子(AAN)
- 9月27日 村田達彦(遊工房アートスペース)
- 10月4日 帆足亜紀(ARCUS)

児島やよい + 内田真由美

アートコーディネーターの仕事
8月3日・17日・24日・31日 / 9月7日・14日・21日・28日



最前線で活躍するアートコーディネーターの2人による人気講座を再び開講。「クママトリックス 草葉集展」(2004年 森美術館)を企画・コーディネート、ほか数々の展覧会の責任者にも関与。今年秋開催の「荒木経惟展—東京人生—」(江戸東京博物館)も同時進行で解説。幅広いアーティストとの交友によるアートの現場、編集、広報、ギャラリートークや美術展の現状、アート業界のしくみなど、話題は広範囲にわたる。

こじまやよい: 慶應義塾大学文学部卒業。OLを経験したのち、ナゾジウ&ソシエティに勤務。2000年に独立。ライター、大学非常勤講師としても活動。
うちだまゆみ: 三重大学教育学部美術科卒業。新報社、出版社、ギャラリートークを経て、1994年よりフリー。05年から5年間、フジサンケイグループのアートの仕事に携わる。

木下直之

美術作品の生と死
8月4日・18日・25日 / 9月1日・22日・29日 + 朝晩見物ツアー



美術作品は、誰かの意志に基づき、誰かの手を介して生まれる。褒められ、高値で取り引きされるものもあれば、けなされ、見向きをされないものもある。国家が国民の宝だとレッテルを貼るものもあれば、嫌われ、破壊されるものもある。近代の日本で、美術がどのように生まれ、どのように死んだかを、毎回1点の作品を手掛かりに振り返りたい。朝晩見物ツアーあり。

きのしたなおゆき: 東京大学大学院人文社会科学系研究科教授。1954年静岡県生まれ。兵庫県立近代美術館学芸員、東京大学総合研究博物館学芸員などを経て現職。専門分野は文化人類学。93年に「美術という見物」(ちくま学芸文庫)でサントリー学芸賞受賞。主な著書に「ハリボテの町」(朝日新聞社)、「世の途中から届かされていること」(晶文社)など。昨年度BankARTスクールで講師を務めた。

オムトン

こどものための音楽教室「オムトントン」
7月29日 / 8月5日・19日・26日 / 9月9日・16日・23日・30日



オムトンは3人で、自分たちの好きな音や音楽を演奏しています。みんなの好きなものはなんですか? サッカー、花、ケーキ、ともだち、動物…。みんなの好きなものをこっそり教えてくださいます。そして、好きなものを音にしてみました。そんなコトがいっしょにできたらいなと思っています。

おむとん: 岸川由、佐藤真子、高橋若菜の3人からなる打楽器バンド。2001年都心の呼びかけで結成。マリリン、ジャンク、鈴、コンガなどの様々な楽器を使い、シンブルに心地よい音づくりを目指している。発表の場はカフェやライブハウスなど様々。BankART1929企画展「BankART1929」では「YOKOHAMA Omu-tono」を制作。現在、ニューアルバムを制作中。

梅若猶彦

梅若猶彦の世界「古典の様式/アバンギャルド風ミックスジュース」
10月16日・23日・30日 / 11月6日・13日・20日・27日 / 12月4日



芸術作品とは、一つ一つの観念の欠片(かけら)が合わされつつ、パズル構成されるのか、それとも観念以前の何らかの欠片が、それらを結ぶ高次の思考の枠組みの中で構成されてゆくのか、いずれにしてもそれらが構成される際の接合部分がどうなっているのか、それに観念をくっつける接合剤が問題であります。観念で言えば「つなぎ」というところでしょうか? これらを踏まえたワークショップにしたいと思っています。

うめわかなおひこ: 建築家シテ方。1958年大阪府生まれ。多くの建築で自ら演じる傍ら、創作展や現代舞踏とのコラボレーション等にも積極的に取り組む。現在、静岡文化芸術大学助教授。ロンドン大学客員教授。主な著書に「建築への招待」など。BankART1929企画展「食と現代美術」では「ショートケーキ食べたでートリスタンとイゾベルよりプーバ二食付き」を披露。

みかんぐみ

インテリアを考える
10月10日・17日・24日・31日 / 11月7日・14日・21日・28日



「インテリア」について観念・研究します。インテリアのどのような要素に注目して、それが今日の社会的な状況や歴史的背景などと、どのようなかかわりをもっているのかということについて、テーマを決めて受講生のみなさんとディスカッションしながら一緒に考えていきたいと思っています。

みかんぐみ: 1995年設立の加茂紀和子、曾後部昌史、竹内昌義、マニエール・タルディップの4人による建築家ユニット。戸建住宅から、グループホームやライブハウスなどの建築設計を中心に、家具、プロダクト、展覧会でのインスタレーションなど幅広くデザインを手がける。BankART1929企画展「食と現代美術」で「ハンガートンネル」/「マイナハウス」などを、「BankART life」では「銀行美術の石炭高気圧風」を制作。昨年度BankARTスクールで講師を務めた。

木下長宏

美術批評入門
10月11日・18日・25日 / 11月1日・8日・15日・22日・29日



美術批評とはなにか、どのように読まれ、書かれるべきか。事例を読み解きながら、作品・作者との関係のありかた、文章表現上の問題などを議論する。「美術批評」を読むことを通し、「美術・芸術」とはなにかを根拠から考え直す。美術批評をちょっとよく味わうため、書くための入門講座。自身が主宰・開講する自主ゼミ<土曜の午後のABC>の船主も務め。

きのしたながひろ: 美術評論家。1930年生まれ。元横浜国立大学教育人間科学部教授。専門は日本近現代美術思想史。主な著書に「肉食天心」/「ゴッホ」/「増補・中井正一」/「舌の上のブルース」/「大学生のためのレポート—小論文の書きかた」など。共著に「イエスはなにか」/「現代フランスを知るための36章」など。

没後20年 ヨゼフ・ボイス再考

10月5日・12日・19日 / 11月2日・9日・16日・23日・30日

今年1月、没後20年を迎えたヨゼフ・ボイス。存命中はカリスマ的人気を誇り、1984年の来日時は熱狂的に迎えられたものの、彼の死後ベルリンの壁が崩壊し世界が再編されたせい、少なくとも日本ではボイスの名を聞くことがほとんどなくなった。芸術、教育、政治にまたがる彼の広範な活動を振り返り、その意義を再考する。

- 10月5日 山本和弘(都木康史美術館)
- 10月12日 白川昌生(美術家)
- 10月19日 萩原佐和子(ゼゾン現代美術館)
- 11月2日 若江漢字(美術家)
- 11月9日 松本夏樹(武蔵野美術大学/大阪芸術大学非常勤講師)
- 11月23日 三本松信代(神奈川県立近代美術館)
- 11月30日 長田謙一(首都大学東京教授)

倉石信乃

現代写真の基礎—アイドルからソーシャル・ランドスケープまで
10月13日・20日・27日 / 11月3日・10日・17日・24日 / 12月1日



肖像と風景は写真にとって起源からあるテーマだが、両者を別個に考えるのではなく、その相互関係を写真史の中から探ってみたい。同時期に横浜美術館で始まる「アイドル」展を参考に、今日の大衆文化に果たす写真の役割にも触れる。ゲストとしてアイドルから社会的な事件、異様な風景まで、多様なテーマを手がける写真家大森己氏ほかを予定。

くらいししのぶ: 横浜美術館学芸員。1963年長野県生まれ。89年より現職。企画・担当した主な展覧会に、「マン・レイ展」(91年)「菅木志雄展」(99年)、「明るい窓: 風景表現の近代展」(03年)「中平卓馬展」(03年)、「失楽園: 風景表現の近代1870-1945展」(04年)など。主な著書に「反写真論」、共著に「Blink」/「カラー版写真史」など。

佐藤時啓

ピンホールカメラアート術
10月7日・14日・21日・28日 / 11月4日・11日・18日・25日



デジタル写真の現代は、写真の写る仕組みがブラックボックスですが、光が穴を通過することでイメージを形づくるという写真原理に変化はありません。本講座では、その単純な原理の神秘性を体験し、そこに未だに潜む可能性を、さまざまなカメラを制作し、実際に撮影から現像まで体験する事によって探って行きたいと思っています。※別途、材料費が必要となります

さとうときひろ: 写真家。1957年山形県生まれ。83年東京芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。光をテーマとした彫刻、写真、カメラオブジェをモチーフとしたプロジェクトなど多岐にわたる活動を展開。国内、海外でも展覧会や個展を多数開催。BankART1929企画展「横浜写真展」出品。現在、東京芸術大学先端芸術表現科助教授。

12月~3月の講師・企画(予定)

- 森山大道(写真家)
- 太田通典(著作家/写真集編集者)
- 渡辺保(演劇評論家)
- 堀沢静太郎(写真評論家)
- 深沢アート研究所(こども造形教室/絵画研究室)
- 建築一般講座
- ほか

夏季集中・建築実践講座in「大地の芸術祭」越後妻有アートトリエンナーレ

講師 みかんぐみ
建築実践講座として「大地の芸術祭」越後妻有アートトリエンナーレ 2006の巨玉である空き家プロジェクトに参加します。10日間の合宿形式でフィールドワークなどを行いながら、実際に建物を改装、リノベーションします。期間中は大地の芸術祭関係者による特別講義や展覧ツアーなども行う予定です。

日程 8月1日(火)~10日(水)
参加費 ¥60,000 (10日間の受講料+「大地の芸術祭」バス代+横浜-新潟間交通費+宿泊費+食費)
※その他交通費など別途徴収することがあります

BankARTschool
2006年度前期 募集案内

